

2023年6月

第24回新潟水俣環境賞作文コンクール受賞作品のお知らせ

連絡先：新潟水俣病被害者の会
〒950-0965 新潟市中央区新光町6-2 勤労福祉会館3階
TEL 025-281-2466 FAX 025-281-8101

新潟水俣環境賞作文コンクール設立の趣旨

新潟水俣病被害者の会と同阿賀野患者会は、「こんな苦しみは自分たちだけでたくさんだ。子や孫に同じ苦しみを味わせてはならない」という思いから、公害の根絶や環境と人間を大切にする社会をつくる活動を展開しています。しかし、そうした思いとは逆に、環境汚染による人体被害は深刻化しており、私たちは、子どものときから環境問題に関心を持ち、理解し、行動することがたいへん大切であると感じています。

新潟水俣環境賞作文コンクールは、そうした観点から、子どもたちより『身の回りの環境や新潟水俣病』を題材に広く募るものです。

第24回新潟水俣環境賞 作文コンクール受賞者

第24回新潟水俣環境賞作文コンクールに、小・中学生あわせて137人の応募がありました。厳正な選考結果を受けて、被害者の会と阿賀野患者会は次の6名を表彰します。

〈優秀賞〉

- ◇小学校1・2年生の部 きれいな水を守るために
おく やま り お
奥 山 理 央 さん（五泉市立五泉小学校2年）
- ◇小学校5・6年生の部 新潟の環境をきれいに保つ
こ ぼやし り り
小 林 莉 々 さん（上越市立国府小学校5年）
- 新潟の自然
たか はら のぞむ
高 原 望 さん（上越市立国府小学校5年）

気にかけるだけで救える人がいる

山^{やま}田^だ結^{ゆい}菜^なさん（上越市立国府小学校5年）

言葉でだれかの支えになること

加^か藤^{とう}結^{ゆい}心^こさん（新発田市立外ヶ輪小学校5年）

〈佳作〉

◇小学校3・4年生の部

偏見はおかしいという気持ちを

小^こ林^{はやし}ゆきのさん（新潟市立横越小学校4年）

◇小学校一・二年生の部

きれいな水を守るために

五泉市立五泉小学校二年 奥山理央

わたしがすむ五泉市には、トゲソというぜつめつきぐしゆの魚がすんでいます。また、吉清水やどばしっこ清水などの清水もあります。吉清水の水は、とてもつめたく、すきとおっていて、すごくおいしいです。

「休みにはいつも水をくみに来るんだよ。」遠くからも、この清水に来る人がたくさんいます。五泉の水はとてもきれいです。

でも、まだわたしが生まれる前、この清水の近くのあが野川で、新がた水俣病というこわい病気がおきたことをお父さんが教えてくれました。たくさんの方がなくなったり、体が不自由になってしまったりしたそ

うです。そして、今でも、苦しい思いやかなしい思いをしている人がいることを聞いてすごくびっくりしました。その病気は、工場から「ゆうき水ぎん」というどくをふくんだ水が川に流されたことが原因だそうです。その川でとった魚を食べた人が病気になってしまいました。わたしはとてもこわくなりました。そして、水の大切さにも気づきました。いつも当たり前なのんだり、つかったりしている水がよごれてつかえなくなったら、今の生活をするのができなくなってしまうからです。

わたしは、これからも、水をおいしくのんだり、つかったりできるように、水をできるだけよごさないようにしたいです。わたしは、一年生の時から、ごはんを食べた後、自分がつかった茶わんや皿のよごれをペーパータオルやへらでおとしてからあらっています。油などをそのまま水に流してしまうと、その水をきれ

いにするには、とてもたくさんの方がひつようだと教えてもらったからです。

わたしは、トゲソがすんだり、おいしい清水がのめる五泉の水をいつまでも大切にしていきたいです。だから、これからも自分にできることをつづけていきたいです。

◇小学校五・六年生の部

新潟の環境をきれいに保つ

上越市立国府小学校五年 小林 莉々

人の意識が、環境をきれいに保つために一番大切なことだと思います。海と川をきれいに保つことで、空も森も、そして、人も心もきれいになるとわたしは考えます。

わたしの学校では、春と秋に海岸清そうをしています。早朝の海に集まるこの活動に毎回母と参加しています。いつもたくさんのごみがあつて、変な液体が入っているゴミも数えきれないぐらいの量でおどろきます。液体がこぼれ落ちている物も何個かあつて、汚れや病気のリスクが上がってくると思います。

水俣病は、工場はい水に毒が混じつて川に流され、

汚染された魚を人間が食べて起きた公害です。私たちも海や川に変な液体や洗剤などを流したり、捨てたりしないことを心がけなければいけません。

新潟水俣病の被害の原因となる有機水銀を工場から止められたのは、約三十年後でした。プラスチックの製造はありがたいのですが、川に毒を流したことが問題です。富山県は一九一〇年ごろ、熊本県は一九五六年、新潟県は一九六五年、何十年も前のことですが、もっと気を付けていればこのような事件はなかっただろう、公害は起きなかったのではないのでしょうか。

このように考えると、一人一人が川や海をきれいに保つように気を付けていれば、こんなに被害がでなかつたと思います。

資料館に行き、語り部の権瓶さんと新潟水俣病の勉強をしました。見えるはん囲がせまくなる人、ずっとセミが鳴いているような耳鳴りがする人。また、足が

動かしくくなれば、それが原因で事故が起きるのではないかと思いました。とてもつらい症状の人もいれば、症状がすぐに出ない人もいて、人によって症状にちがいがあるのだとよく分かりました。また、地域の人達からの仲間外しや結こんを断られたなどの差別があったことも教えてもらいました。わたしは、どの症状もつらいと思うのですが、最もつらいのは、「新潟水俣病なのに認めてもらえない。」そんな切ない気持ちに心が残りしました。

新潟水俣病と分かっている、周りの人や国に認めてもらえないのは、とてもつらいことだと思います。さらに、働くことが大事だと思ったのに、思い通りに働くことができない切ない気持ちをわたしたちが次の世代に伝えていきたいです。

新潟水俣病のことを知らない、同じあやまちを繰り返してしまいます。わたしはこの学習をして大切に

していきたいことは、偏見をなくすために、変なうわさを流さないために自己判断をしないこと、そして、間違った行動は止めることです。

◇小学校五・六年生の部

新潟の自然

上越市立国府小学校五年 高原 望

最近、近所の名立に行つてサケや漁港を見学しました。ぼくは、新潟の自然はとてもすばらしいと感じました。何よりサケが一番印象に残っています。「すごい、こんなにサケは名立川に戻ってくるのか。」ぼくの予想をはるかに上回りました。漁港では、カニをとるしかけや漁から帰ってきた船からおりてきた甘えびと深海魚を見せてもらいました。魚雷で亡くなった人の名前が残っているお地蔵さんがいることを教えてもらつて、漁港つて船が来るだけじゃないことを学びました。

サケについて調べると、サケは四年程かけて遠く

ベーリング海まで行き、日本の川に確実に戻ってきました。同じようにウナギもマリアナで産まれて日本に戻ってきます。ウナギは日本で数年間過ごした後、産まれたマリアナに戻ることがサケとの共通点だと思います。ぼくの推測ですが、サケもウナギも海で数年過ごしたら、きゆう覚をたよりに産まれた場所に戻ってくるのではないかと思います。

ウナギは産卵場所のマリアナで三百万個の卵を産み、サケは三千から四千個の卵を生まれた川で産んで死んでしまいます。なぜ、ウナギの方がこんなに多く卵を産むのかと考えたら、他の魚に食べられるので産卵する数が増えるのだと思います。そして、放流したサケが名立川に戻ってくる確率は千分の一だとサケ漁業組合の方に教えてもらいました。

ぼくは、サケやウナギについて学習して、自然のきびしさを知りました。他の人にもこのきびしさを伝え、

ふ化した魚が一匹でも多く育つ海や川を守っていきたく
いです。

さて、そんな自然豊かな新潟ですが、今、自然が壊
されています。みなさんは、マイクロプラスチックと
いう物を知っていますか。約5mm以下の荒波にもまれ、
細くなったプラスチックの事です。その細かく
なったプラスチックを魚が食べて、イルカやクジラ、
カメや魚がどんどん死んでしまっています。

五年生になった四月に近くの五智海岸の清そうをし
ました。ぼくたち六十二人が一時間ほど集めたゴミ
の量は、軽トラックの荷台いっぱいにもまる量を片付
けました。ですが、一ヶ月後に海岸に行ったら、ゴミ
が大量にあるのです。数は分かりませんが大量と言う
ことだけは分かりました。

海岸を清そうをする人たちがいる一方で、ポイ捨て
をする人がいます。なぜだと思えますか。ぼくは知名

度が低いからだと思えます。それに、プラスチックを
トウモロコシなどから作るバイオマスプラスチックに
変えた方が良いと思えます。すでに自動車の部品やコ
ンビニのレジぶくろに取り入れられています。このよ
うなことをもつとテレビや新聞などで取り上げるべき
ではないでしょうか。

◇小学校五・六年生の部

気にかけるだけで救える人がいる

上越市立国府小学校五年 山田結菜

私は、公害である新潟水俣病を決して忘れてはいけない事件だと考えます。なぜなら、このまちがいを絶対に繰り返してはいけないからです。

私は、新潟水俣病のことを事件だと思っています。工場から出された有機水銀の毒が、川に流れこんだことが新潟水俣病の原因だからです。それに、なぜ毒を処理しないで流したのか、きちんと説明されていないからです。

社会科の授業で、私は水俣病になってしまった子どもの小さな手を写真で見ました。白黒の写真でしたが、何か異変を感じました。小さな手が、本当は曲がってはいけない方向へ曲がっていたからです。わたしは、

こんなに小さな手をもつ子どもまで被害にあい、さらに、何も知らずに魚や貝を食べただけで被害にあったことがおそろしくなりました。

十一月に人間と環境のふれあい館に行きました。そこには、語り部さんの権瓶良雄さんがいらっしやって、私たちは大切なことを教わりました。戦争が終わり日本工場生産がさかんになりました。それによってけむり、水などが汚されました。その上、権瓶さんは、「体がいうことをきかなくて、苦しい。」と補ちょう器と度の高いめがねをつけて語ってくださいました。ずっと耳鳴りがするのでとてもつらそうでしたが、自分のことをたくさん教えてくれました。新潟水俣病は、健康や生活、仕事をうばっただけでなく、人々の心までこわしました。新潟水俣病は人から人へうつる病気ではありませんが、おそれられて地域の絆をさく差別も生み出したからです。それに、国や県に申請しても、なかなか受理してもらえませんでした。

「金がほしいから、さい判を起こしている。」

「税金どろぼう。」

とうそだとうたがわれて、傷ついた人がたくさんいたことを絶対に忘れてはいけません。

私は、相手をよく知ることと差別・へん見を生み出さないようにしたいと考えます。その人がとても努力していても知らなかったら差別してしまうかもしれない。相手のことを知ったらよい一面も見えるかもしれない。この学習で理解する大切さについて考えました。

一方、そんな昔のことなんか、今さら知ってももう遅いのではないかと思う人もいるかもしれません。ですが、今の地球はどうでしょうか。地球温だん化が進み、環境がこわされ、第三の水俣病が起こる可能性があるのではないのでしょうか。私たちは、環境を守らなければなりません。

だから、私は、新潟水俣病を忘れないで伝えたい。

一人ひとりが少しでも環境を気にかけるだけで苦しむ

人が減るかもしれない。つらい気持ちにならなくていいかもしれない。そのために、この悲しい事件を伝えていかなければならないのです。

◇小学校五・六年生の部

言葉でだれかの支えになること

新発田市立外ヶ輪小学校五年 加藤 結心

私が新潟水俣病を知り、深く心に残ったことは、差別や偏見に立ち向かい、つらい思いをしても頑張って生きてきた人たちの姿です。そのうらには、寄りそってはげまし続けた人たちがいました。差別・偏見は人権や大切な命をもうばってしまいます。一人一人がそれを理解し、支え合うことができれば、もつとより良い社会を築くことができると思います。

授業で新潟水俣病患者の語り部さんからお話を聞きました。小さい頃から「たたり病」や「なまけ病」といった、心を傷つけられるようなうわさをされ、身体よりも精神的に苦しかったそうです。私が思っていた以上の差別や偏見があったことにおどろきました。

では、どうして差別をしてしまうのでしょうか。私は、相手の立場になって考えることができれば、症状の大変さや、自分を認めてもらえない苦しさが想像できると思いました。にもかかわらず、逆にきずつけるようなことは、絶対にしてはいけないと思います。

また、一人一人の違いを認めようとせず、自分の違う部分があることを否定しています。平等に接しようとしていないで、どこかで人を下に見ているのではないのでしょうか。

そんな差別・偏見にたえられなくなり、語り部さんは自ら人生に幕をとじようと考えたこともあったそうです。それでも生きてこられたのは、温かい言葉をかけてくれた人たちがいたからです。言葉は人の命をうばうこともあるけれど、逆に命を救うこともできるのだなあと思いました。

私は言葉で人の命を救うことができなくても、少しでも支えられるような人になりたいと思いました。

しかし、私自身が普段の生活の中で、誰かの支えや助けになっっていることは少ないと思います。また、困っている人を見逃していたこともあります。

先日、電車内の優先席で、お年寄りに席をゆずっていた人がいました。それを見て、優しいなと思ったのですが、母が、

「ゆずった人は補聴器をつけていたね。」

と言いました。私はそのことに気づきませんでした。障がいの有無にかかわらず、お年寄りを助けたその人がすごいと思いました。そして、そのことに気づいていた母の視野の広さにおどろきました。私は自分のことばかり考えていたんだなと思いました。

水俣病から、言葉で誰かの助けになること、そして、誰かの立場になって考えることを学びました。でも、生活の場で困っている人を見つけ、助ける心をもっていなければ意味がありません。だから私は、いつでも相手の気持ちを考え、周りの視線にためらわずに正し

いと思ったことを行動に移せるようになってみたいです。

そして、二度と同じことをくり返さないように水俣病の公害を、語り継いでいきたいです。

□第1回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校1・2年生の部 小 出 有 紗 さん (吉田町立 吉田小学校2年) 「ほたるさがしをやってみて」
- ◇小学校3・4年生の部 佐 藤 航 君 (上越市立 上雲寺小学校3年) 「川をままろう」
- ◇小学校5・6年生の部 宮 川 雄太郎 君 (柿崎町立 柿崎小学校5年) 「新潟水俣病の勉強をして考えたこと」
- ” 小野 恵 美 さん (新潟市立 大淵小学校6年) 「自然について そして私たちにできる事」
- ◇中学校の部 本 間 洋 州 君 (新潟大学教育人間科学部 附属新潟中学校3年) 「新潟水俣病を語り継ぐ」

□第2回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校1・2年生の部 石 塚 雄 基 君 (柏崎市立 南鯖石小学校2年) 「ぼくのスイカ」
- ◇小学校5・6年生の部 西 方 あすか さん (田上町立 田上小学校6年) 「ゴミの少ない世界に向けて」
- ” 泉 田 頌 彦 君 (田上町立 田上小学校6年) 「新潟水俣病で苦しんだ人たち」

□第3回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校1・2年生の部 やざわ たかゆき 君 (新潟市立 鳥屋野小学校1年) 「ぼくのうちのクリーンさくせん」
- ◇中学校の部 石 井 美野李 さん (豊栄市立 光晴中学校1年) 「蛍の飛び交う住みよい町を」
- ” 高 橋 夏 希 さん (豊栄市立 光晴中学校1年) 「自分自身に勝てますか」

□第4回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校1・2年生の部 さとう なつき さん (十日町市立 中条小学校1年) 「ほたるのいないなつ」
- ◇小学校5・6年生の部 佐 藤 愛 理 さん (新潟市立 真砂小学校6年) 「野鳥の森を壊さないで！」
- ◇中学校の部 濁 川 暁 さん (新井市立 新井中学校1年) 「水と緑の新潟をいつまでも」
- ” 牧 口 菜奈子 さん (柏崎市立 鏡が沖中学校3年) 「環境問題との距離」

□第5回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校3・4年生の部 河 合 寿 也 君 (吉田町立 粟生津小学校3年) 「平和な社会のために」
- ◇中学校の部 佐 藤 愛 理 さん (新潟市立 五十嵐中学校1年) 「動植物たちの警告」
- ” 石 井 愛 理 さん (豊栄市立 光晴中学校1年) 「水俣病から学んだこと」

□第6回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校5・6年生の部 まる やま ち か こ さん (新発田市立 外ヶ輪小学校6年) 「水俣病を学習して」
- ◇中学校の部 佐 藤 大 介 君 (新発田市立 豊浦中学校1年) 「福島潟の環境について」

□第7回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校1・2年生の部 ほ し みやこ さん (上越市立 中郷小学校1年) 「にいがたのしぜん」
- ◇小学校3・4年生の部 小野島 一 美 さん (柏崎市立 門出小学校4年) 「自然がふえるたび、楽しさは広がる」
- ◇小学校5・6年生の部 齋 藤 眞 生 さん (新発田市立 猿橋小学校5年) 「新潟水俣病被害者の心」
- ” 齋 藤 怜 奈 さん (新発田市立 天王小学校6年) 「水俣病と阿賀のお地藏さんの学習をして」

□第15回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校1・2年生の部 さかがみ まなみ あ美 ま美 さん (新潟市立
入舟小学校2年) 「水や食の安全」
- ◇小学校5・6年生の部 おお はは まま い衣 ま麻 さん (新潟市立
濁川小学校5年) 「絶対にわすれてはならない新潟水俣病」
- ◇小学校5・6年生の部 ええ もも しし とと し脩 と人 さん (新潟市立
岩室小学校5年) 「この一年間環境について考えたこと」
- ◇中学校の部 わわ せせ だだ ま真 い衣 さん (上越市立
潮陵中学校1年) 「地域のよさを残していくために」

□第16回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校3・4年生の部 さかがみ まなみ あ美 ま美 さん (新潟市立
入舟小学校3年) 「新がた水俣病について思う事」
- ◇小学校5・6年生の部 いい かか らら た拓 み海 さん (上越市立
東本町小学校5年) 「ぼくの住んでいる地域」
- ◇小学校5・6年生の部 いい かか らら た拓 み海 さん (上越市立
東本町小学校5年) 「苦しんでいる水俣病患者さん」
- ◇小学校5・6年生の部 おお はは まま い衣 ま麻 さん (新潟市立
濁川小学校6年) 「ホタルの住むふるさとに」

□第17回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校5・6年生の部 ひ樋 ぐぐ ち口 ひひ なな さん (上越市立
東本町小学校5年) 「動植物の声に耳をかたむけて」
- ◇小学校5・6年生の部 き岸 だ田 ああ き希 さん (新潟市立
新井中央小学校5年) 「新潟の自然のすばらしさ」
- ◇小学校5・6年生の部 な中 だ田 ささ や柳 さん (妙高市立
新井中央小学校5年) 「犠牲になる人をつくらないで」
- ◇中学校の部 ほ星 し野 とと も智 哉哉 さん (新潟市立
南浜中学校1年) 「水俣病を学習して」

□第18回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校5・6年生の部 ほん本 ま間 ゆめ夢 な菜 さん (新潟市立
横越小学校5年) 「心に響いた言葉「心も体も痛い」
- ◇小学校5・6年生の部 さ佐 き木 はは るる なな さん (新潟市立
外ヶ輪小学校5年) 「同じ事をくり返さないで」
- ◇中学校の部 たか高 は橋 ああ づづ み美 さん (新潟明訓中学校2年) 「今の私たちにできること」

□第19回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校5・6年生の部 ご後 とう藤 なお尚 こ子 さん (新潟市立
亀田東小学校5年) 「新潟水俣病の人々の事実」
- ◇中学校の部 よし吉 だ田 とも知 か花 さん (新潟明訓中学校2年) 「私達の義務」
- ◇中学校の部 さ佐 とう藤 ささ くらくら さん (新潟明訓中学校2年) 「未来につなげていくために」

□第20回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校5・6年生の部 ひら平 やま山 あまね周 さん (上越市立
東本町小学校5年) 「「光」と「かげ」」
- ◇小学校5・6年生の部 かい貝 ぬま沼 ゆう祐 な奈 さん (上越市立
東本町小学校5年) 「水俣病について学んで」
- ◇中学校の部 さ佐 とう藤 もも百 か華 さん (新潟明訓中学校2年) 「繰り返さぬために」
- ◇中学校の部 ひら平 おか岡 ち千 つる鶴 さん (新潟明訓中学校2年) 「今、私たちにできること」

□第21回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

- ◇小学校5・6年生の部 はは せせ がが わわ み美 な波 さん (新潟市立
外ヶ輪小学校5年) 「私達の未来は」

□第22回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

◇小学校3・4年生の部	まつ 松	もと 本	もり 護	や 也	さん	(新潟市立 亀田東小学校4年)	「自然のおくりもの」
◇小学校5・6年生の部	かつ 勝	み 見	ゆずな ゆずな	さん	さん	(新発田市立 外ヶ輪小学校5年)	「次は僕たちが後世へ語り継ぐ番」
ク	わし 鷺	お 尾	あや 礼	こ 子	さん	(新発田市立 猿橋小学校5年)	「日本人の責務」
◇中学校の部	あ 阿	べ 部	ゆ 由	か 佳	さん	(新潟明訓中学校2年)	「二律背反」
ク	やす 安	だ 田	り 梨	の 乃	さん	(新潟明訓中学校2年)	「現在のわたしたちに必要なもの」

□第23回新潟水俣環境賞 作文コンクール優秀賞受賞者

◇小学校5・6年生の部	かん 神	だ 田	きずな 絆	さん	さん	(新発田市立 住吉小学校5年)	「一つの行動が未来を変える」
ク	くろ 黒	さき 崎	ゆう 優	な 奈	さん	(新発田市立 住吉小学校5年)	「新潟水俣病の苦しみ」
ク	みず 水	しま 島	そう 蒼	すけ 介	さん	(新発田市立 住吉小学校5年)	「未来の自然のために」
◇中学校の部	いた 板	が 垣	ひ 陽	な 菜	さん	(新潟大学附属 新潟中学校2年)	「人間は……」

□新潟水俣環境賞作文コンクール選考委員

板垣剛（新潟水俣病弁護団）、小武節子（新潟水俣病被害者の会）、斎藤恒（木戸病院名誉院長）、佐藤優（新潟県教職員組合）、白川裕子（新潟県教職員組合）、曾我浩（新潟水俣病阿賀野患者会）、高野秀男（新潟水俣病被害者の会事務局）、中村周而（新潟水俣病共闘会議）、藤田伸一（県立環境と人間のふれあい館）、間狩隆充（新潟日报社）、○渡邊登（新潟大学フェロー）

〔五十音順、敬称略、○は選考委員長〕

□主 催

新潟水俣病被害者の会、新潟水俣病阿賀野患者会

□後 援

新潟県・県教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、阿賀野市・阿賀野市教育委員会、五泉市・五泉市教育委員会、阿賀町・阿賀町教育委員会、長岡市・長岡市教育委員会、上越市・上越市教育委員会、三条市・三条市教育委員会、柏崎市・柏崎市教育委員会、新発田市・新発田市教育委員会、小千谷市・小千谷市教育委員会、加茂市・加茂市教育委員会、十日町市・十日町市教育委員会、見附市・見附市教育委員会、村上市・村上市教育委員会、燕市・燕市教育委員会、糸魚川市・糸魚川市教育委員会、妙高市・妙高市教育委員会、佐渡市・佐渡市教育委員会、魚沼市・魚沼市教育委員会、南魚沼市・南魚沼市教育委員会、胎内市・胎内市教育委員会、聖籠町・聖籠町教育委員会、弥彦村・弥彦村教育委員会、田上町・田上町教育委員会、出雲崎町・出雲崎町教育委員会、湯沢町・湯沢町教育委員会、津南町・津南町教育委員会、刈羽村・刈羽村教育委員会、関川村・関川村教育委員会、粟島浦村・粟島浦村教育委員会、新潟日报社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T新潟総合テレビ、TeNY テレビ新潟、UX新潟テレビ21、FM新潟77.5、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエムしばた、FMゆきぐに・雪国新聞、燕三条エフエム放送、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムとおかまち

募 金 の お 願 い

新潟水俣環境賞は、被害者の会が1996年の和解時に支払われた「解決金」の一部を拠出して設け、最近は関係者や篤志家からのカンパでまかかっています。被害者の会と阿賀野患者会は、本賞が子どもたちの関心と呼びかけとなり、かつ、健やかに育ってくれることを願い、できるだけ長く続けたいと思っています。また、2015年の新潟水俣病公表50年を機に、第1回～16回の優秀賞をまとめた「作文集」を県内の小・中学校全校と公立図書館に配布しました。長く続けられるようご協力をお願いします。

〔募金送金先〕

○郵便振替口座 00500-0-8369 新潟水俣病被害者の会

○新潟県労働金庫 新潟南支店（普）4167069 新潟水俣病被害者の会

